

火山防災に係る現地調査・勉強会 実施報告

平成 31 年 3 月 13 日
福島県 災害対策課

1 目的

火山専門家や関係機関（担当者）からの解説を聞きながら現地を歩き、過去の火山災害や火山防災対策の現状について学び、理解を深めることにより、今後の具体的な火山防災対策の検討や避難計画の策定・見直しにつなげていくことを目的とする。

2 実施日程

平成 30 年 8 月 7 日（火） 磐梯山

平成 30 年 10 月 23 日（火） 安達太良山

3 参加者

【磐梯山】 火山防災協議会の構成機関の職員等 32 名

【安達太良山】 火山防災協議会の構成機関の職員等 24 名

4 調査・解説等の概要

【磐梯山】

○裏磐梯スキー場に残る巨石や桧原湖の流れ山を眺めながら、1888年の山体崩壊、岩屑なだれ等について解説あり。

○銅沼では山体の状況や噴気発生箇所、水質（強酸性）等について解説あり。

○川上温泉付近や旧磐梯国際スキー場付近の露頭において、噴火による堆積地層、岩石や火山灰層の特徴等について解説あり。

○長坂地区、渋谷地区、見祢の大石では、1888年の噴火による居住地域の被害について解説あり。

【安達太良山】

○硫黄川谷底の地形を眺めながら、1900年の噴火災害（火砕サージ等）の被害について解説あり。硫黄川流域や沼尻登山道の危険性を肌感覚で体感。

○酸川周辺のラハール（火山泥流）堆積物の状況や特徴（色・粘着性）について、巨大礫や堆積地層を見ながら解説あり。

5 振り返り

○現地に足を運んで山体や登山道の地形・状況を把握することが、緊急時の対応に限らず平時からの火山防災対策の検討にとって重要。

○登山者や住民等がどのように火山災害に備え、緊急時にはどのように避難行動を取るべきか、平時からの啓発や防災教育の推進が求められる。